

## 第16次第1回苫小牧市廃棄物減量等推進審議会 会議録（概要版）

日時：令和7年7月23日（木）午後4時～午後4時45分

場所：nepia アイデアアリーナ 会議室3・4

出席者：委員14名

町田副市長、環境衛生部長、ゼロごみ推進室長、施設管理課長、施設管理課長補佐、ゼロごみ推進課長、ゼロごみ推進課長補佐、その他事務局3名

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員自己紹介
- 5 会長及び副会長の選出

事務局より会長に平野委員、副会長に佐々木委員を提案。  
委員全会一致で了承。

## 6 苫小牧市廃棄物減量等推進審議会について

### 7 議題

- (1) ごみの収集に関するアンケート調査について

事務局より資料2について説明。

アンケート実施の背景や目的、実施方法等を説明するとともに、アンケート調査票の案を提示。

審議会として異議なしの旨を確認。

### 8 報告

- (1) ごみ量とリサイクル率の推移について

事務局より資料3について説明。

以下、質疑応答。

<委員A>

ごみ量（1人1日当たりの家庭ごみ排出量）528gというのは、道内の他の市町村と比べて多いのか、少ないのか、もしわかれば教えてください。

<事務局>

順位については今正式な数字を持っていないのですが、少ない方とは言われています。

リサイクル率については、10万人以上いる道内主要10市の中では、10年連続1位となっておりますが、ごみ量については、もうちょっと少ない都市もあるというのは事実ですので、引き続きこういったところも下げていかないといけないと思っています。

<委員A>

一般廃棄物処理基本計画で目標としていたごみ量520gという数字には、何か根拠はあるのでしょうか。

<事務局>

前の一般廃棄物基本計画では、15年間をかけて家庭ごみの排出量削減とリサイクル率の向上を目指して取り組んできました。

家庭ごみの有料化前にはプラスチックのリサイクルを始めたり、有料化に合わせて紙のリサイクルや拠点回収（油・小型家電など）を進めるなど、さまざまな施策を実施したものの、目標には届きませんでした。

一方で、他都市では有料化後に再びごみ量が増加する事例もある中、苫小牧市ではコロナの影響等もありましたが、市民の協力により減量が継続されていると認識しております。

回答にはなっていないかもしれませんが、そのような計画のもとでやってきておりました。

## 9 その他

本市が抱えるごみ出しや収集に関する課題を踏まえ、新型ごみステーションの開発を研究テーマとして取り組まれている中嶋委員より、これまでの研究の背景等について説明いただいた。

以下、質疑応答。

<委員B>

この大きさ（持参いただいた新型ごみステーションのモデル）で重量はどのくらいなのでしょう。

<中嶋委員>

この大きさですと3kg位なのですが、軽すぎると思っています。どのくらいの大きさが良いのか実際に設置してみないとわからないというのもあり、重さについては、これからまた検討しなければいけないものになっています。

<委員C>

大きさはこのままで使うのでしょうか。

<中嶋委員>

1番ベースとなる形がこの形で、2つ繋げて使うと容量が3倍になります。

<委員C>

普段は畳んでおいて、ごみの日に組み立てて使うということですね。

ごみステーションの大きさが足りなくて溢れるという問題が多いので、必要に応じて大きさを確保できるというのは1つのポイントだと思います。

<委員A>

私の自宅前にごみステーションがあり、緑色の針金でできたようなステーションなのですが、今困っている事は、網の目が大きいので、雑草がどんどん生えてきて、ごみ箱の中が雑草だらけになってしまうことです。そういうこともあるということで、何か参考になればと思って発言させていただきました。

<委員D>

コスト的にはどのくらいなんですか。

<中嶋委員>

4万円前後になるかなと思います。現在設置されているものがそれより高価なものが結構多いので、決して高い価格帯ではないと思っています。

## 10 閉会